

万天日録

元禄二（1689）年の自序あり。釣雪堂著。万治元

（1658）年八月から、寛文、延宝を経て天和三

（1683）年十二月までの日録。

日録とはいいながら、記する月日や内容に精粗があり、戸隠山勸修院も記される二月一日の將軍家への年頭御礼に関しては、ここに掲載する延宝七、八年、改元して天和三年に至る五年間の一連の記述の方が例外である。

国文学研究資料館の日本古典籍総合目録データベースに盛岡市中央公民館蔵の『万天日録』（DOI

10.20730/100163234）の画像（281—648—2）があり、註の数字は該当のコマ数目。

「同」とすべきところを、ページが換わるために「一東一本」などと「同」の内容を最初の行で繰り返している個所が原文にはいくつかある。原文のままとした。

延宝七 (1679) 年二月一日の項 (次年の延宝八年の記述から推

測して「天台宗十八九人」に含まれると思われる。)

一如例年ノ日光久能御鏡 御頂戴并年頭ノ御礼

三束一卷

日光御門跡

御太刀目録

毘沙門堂御名代

一束一卷

小田助之丞

同

山門惣代

上野

一束一本

梁雲院

同

知樂院

同

信解院

同

長樂院

同

喜多院

一束一本

護国院

同

覚成院

同

閑松院

同

高松院

同

徳有院

同

吉祥院

同

東漸院

御暇

時服二

角坊

同一

万福寺

同

尊勝院

同

三木主殿

一同日土井周防守内室一昨日死去ノ由

年頭ノ御礼

高野山

一束一本

大徳院

上野

同

實成院

上野

一束一本

自證院

同

同

常徳院

瀧山

同

青龍院

知恩院弟子

同

延命院

右御目見早テ於御次ノ間天台宗十八人并上野社家

目代日光目代樂人等進物前置一同 御目見

註 572' 573' 574' ㌞㌞。

延宝八(1680)年二月一日の項

同年二月大朔日辛酉 八日節
廿三日中

一朔日日光久能御鏡 御頂戴御延引

一巳后刻御白書院江出御

御太刀目録 三束一卷日光御門跡

右献上之 御對顔早而

年頭之御礼

妙法院門主名代

御太刀目録 菅谷太輔法印

毘門名代

二束一卷 今小路式部卿

三束一卷 知樂院權僧正

一束一卷 山門惣代

世良田

同断 長樂寺權僧正

仙波

同断 毘多院權僧正

三州

同断 真光寺權僧正

遠州

同断 仙妙寺權僧正

上野

一束一本 信解院

山王別當

同断 勸理院

右終テ御次之間ニ天台宗并遠国之寺社日光目代上野目
代同社家久能目代日門家老楽人等並居進物前ニ置一
同ニ御礼

註 729' 730' 731 ヲマ目。

火戸

同断

吉祥院

の「火戸」ママなるも「水戸」ならん。

「手肋十筋」もママ。

天和元(1681)年二月一日の項に

(延宝九年九月二十九日天和
と改元。延宝九年二月でも
ある)

一同朔日巳刻御白書院 出御

年頭之御禮

三束一卷

日光御門跡

御太刀目録

毘沙門堂名代使者

二束一卷

清水内匠

三束一卷

山門惣代

同

上野目代
田村権右衛門

註 「観修院」の「観」は「勸」の誤記。1033' 1034'
1035' 同目。

天和二(1682)年二月一日の項(戸隠山勸修院は「遠国ノ寺社

ノ輩」に含まれると思われる)

年始之御札

御太刀目録

三束一卷

東叡山御札

日光御門跡

毘沙門堂名代

前大路少進

二束一卷

御太刀目録

妙法院門主名代

薰物

今大路兵部卿

右吉良上野介大沢右京大夫兩人ニテ進物披露之

三束一卷

山門惣代金光院

同断

浅草

日光惣代護光院

一束一卷

世良田

知樂院権僧正

同断

日光学頭

長樂寺権僧正

一束一卷

修学院権僧正

一朔日日光久能山御鏡就御頂戴諸大名月並ノ出仕如例年無之

已后刻御白書院へ出御上段 御着座

御装束

御太刀

御小姓衆役之

御劔

御小姓衆役之

日光 御礼

大沢右京太夫

御鏡

畠山飛驒守

久能 御礼
御鏡

畠山民部少輔
由良信濃守

右御頂戴有之

卷数三束一卷

日光御門跡

御太刀目錄銀馬代

右年頭御礼於上段御對顔

卷数三束一卷

薰物一包

妙法院御門跡

太刀銀馬代

右同断爲御礼使者今小路式部卿ヲ以テ進上之使者

御目見

卷数

山門惣代

吉祥院

三束一卷

卷数

日光惣代

唯心院

三束一卷

浅草

一束一卷

知樂院權僧正
新田甲良田山

同 長樂寺權僧正

上野学頭

同 凌雲院權僧正

日光学等

同 修学院權僧正

同 宗光寺權僧正

右一人ツ々出座 御目見

一束一本 上野 圓学院

同所

同 本實成院

同所

同 傳法心院

戸隱山

同 市谷 丸働修院

同

同 自證院

右一人ツ々 御目見

同 上野 津梁院

同所

同 寒松院

三州鳳来寺

一束一本 松高院

駿州久能

同 德音院

上野

同 養壽院

水戸如日山

同 吉祥院

上野

同 春性院

三州瀧山

同 青龍院

上野

同 東漸院

同所

同 常德院

同所
浄圓院
知樂院弟子
同 宮内卿

右十二人兩度進物持参出座御礼

右終テ間ノ御襖障子明之御次ノ間ニ於テ

進物品々前置之
上野僧 廿一人
遠国僧

太刀計前置之
上野 樂人

扇子 上野社家惣代
金子内記

苔一筥 日光社家惣代
猿橋齊

扇子 日門家来
榊原藏人

同 同断 吉川大藏卿

同 上野目代 田村権右衛門

同 久能目代 星与左衛門

同 紅葉山 板坂宗悦

同 同断 高野道入

右並居一同ニ御目見則 入御

御墓様へ 二束一卷 日光
御守

御姫様へ 同断 同人

御墓様へ 毘沙門

右ノ通り進上之

御三人方ヨリ使者被差上之是ハ今日出仕無之二付テ

井伊掃部頭 松平讃岐守保科肥後守

右今日登 城御礼内御次二伺候

三丸へ午下刻 渡御申下刻 還御

註 1573 から 1578 コマ目。「**朧**働修院」の「働」は「勸」
の誤記。「**朧**」は読みが不明。